

こだわりの化粧品パッケージの生産性向上

二和印刷 株式会社

美と独創性を追求し、生産性向上・高付加価値化を実現

二和印刷株式会社が得意とするのは、高級化粧品や高級洋菓子のパッケージ印刷である。凝った美しいデザインを形にするためには高度な印刷技術に加え、移り変わる流行に対応できるしなやかさも必要だ。時代の波に乗り、さらなる飛躍を果たすため、同社では助成金を活用して新たな大型印刷機を導入。印刷物の高付加価値化と大幅な生産性向上に成功し、新規顧客も開拓できたという。

●独創性あふれる美しいパッケージ印刷を目指して

二和印刷株式会社が得意とするのは、印刷の中でもパッケージ印刷と呼ばれる分野だ。特に高級化粧品や高級洋菓子など、発色やデザインにこだわりが求められるパッケージには定評がある。

「お客様からはありがたいことに、『二和印刷さんに行けば、思いどおりの色を出してくれる』と言っていただきます。それを可能にしてきたのが当社独自の『調色』の技術です」（堀野代表取締役）

「調色」とは、インキを混ぜ合わせて独自の色（特色）を作り出すこと。一般的にはインキメーカーに発注して作るが、二和印刷では自社で色を作り、管理することにこだわってきた。その高い技術力が認められ、大手化粧品メーカー・株式会社資生堂とは創業以来80年近く、印刷を任される信頼関係を築いてきた。

しかし、近年ではパッケージ印刷に求められる手法が変化し、特色よりも4色カラー印刷が主流になってきた。4色カラー印刷とは、色を藍・紅・黄・墨の4色に分解し、各色を順に重ね塗りして色を再現する技法で、現在、多く

の印刷物に使われている。

また、付加価値を高める高度な二次加工も求められるようになってきたという。

たとえば、錦織のような和風デザインの紙製化粧品パッケージ。一見、華やかな特色がふんだんに使われているようだが、実は4色カラー印刷で、二次加工により、刺繍のような柔らかい感触と凹凸がある。

「実は資生堂さまから、この刺繍のようなパッケージを



世界3大デザイン賞のひとつ「iFデザインアワード」で受賞した化粧品パッケージ。二次加工による刺繍のような柔らかい感触と凹凸が特徴



デザイナーから絶大の信用を得ている当社の調色技術



設備情報

H-UV印刷機(小森コーポレーション製)・菊半裁4色オフセット枚葉印刷機GL-429

作れないかとご提案いただいたことが、今回、助成金を申請するきっかけになりました。既存の設備ではここまでのものを安定的

●助成金交付に成功した秘訣は?

助成金の申請を決めたものの、初めてのチャレンジだったこともあり、とまどいや苦労もあったようだ。

「まず、申請書類の多さに圧倒されました(笑)。正直、自分たちには無理だと思ったほどです。でも冷静になって、『これを書き上げるためには何が必要なのか?』と考えました。悩み抜いてたどりついた答えは、『過去を知ること』でした」(堀野代表取締役)

申請書で問われているのは、自社がどういう志を持ち、どう仕事を通して社会貢献していくか、という点であると気づいた堀野代表取締役は、「温故知新という言葉もあるように、創業からの自社の歩みを振り返り、先人の想いを知ることから、目指すべき未来像がはっきり見えてくると思いました」と語る。

そこからは先代(創業者:故・堀野輝男氏)をよく知る矢田統括部長にも助成金申請プロジェクトチームに加わってもらい、本格的に調査を始めた。過去に手掛けた印刷物を集め、「どんな職人がどういう想いでどんなふうにものづくりをしてきたのか。そんな先人達のものがたり」を感じ取ろうと努めた。

「そうするうちに自然と結び目がほどけるように、何をどう書くかが見えてきて、そこからは早かったです」(堀野代表取締役)

申請書は堀野代表取締役を中心に、矢田統括部長、営業一課の知念課長代理の三者で作成し、そこで得た先人の歩みや想いは全社で共有した。それによって従業員の意識も変わり、会社が一つになれたという。

●新設備導入の効果と将来のビジョン

第1回革新的事業展開設備投資支援事業に申請し、採択された同社は、2017年11月にH-UV印刷機(小森コーポレーション製、4色H-UVオフセット)を導入した。従来の印刷機との最大の違いは、「見当合わせ」の精

度だという。高度な二次加工や色の再現、立体的な造形などを実現するには、各工程で行う「見当」作業が重要なポイントになる。「見当」がわずかでもずれば、印刷の仕上がりも色がずれるなど、製品として成り立たなくなってしまう。

「従来の印刷機はパッケージ印刷で広く使われているのですが、UVランプを4~5本使っているため、熱で紙の水分が抜けて縮むという難点がありました。それでは見当がずれてしまうので、各工程でいろいろと細かな調整を手作業でしていたのです。しかし今度の印刷機は熱を出さず、紙の伸縮はほぼゼロのため、そうした調整作業が不要となります」(矢田統括部長)

「“見当合わせ”の精度が飛躍的に高まったことから、高度な加工が可能になっただけでなく、1時間あたりの印刷量が導入前の1.5倍に伸びました。準備から印刷が終わるまでの所要時間も、1/2~1/3に短縮できました」(西森工場長代理)

また、色分解をデータ化し、印刷機にプログラムできるようになったことも大きなメリットとなる。理想の色を出すために、従来は卓越した調色の技術と経験を持つ福嶋工場長に頼るところが大きかったが、比較的経験の浅い従業員にも高度な仕事を任せることが可能になった。後進の育成も一段と進めやすくなったと言える。

「これを機にあらためて、創業以来培ってきた技術と心を従業員が共有し、お客様の期待を上回る感動を与える仕事、顧客満足を超えた『顧客感動』を生む仕事をしていきたいと思っています」(堀野代表取締役)



ニ和印刷株式会社

(左から)

代表取締役
堀野 朝広 氏

大井工場 工場長
福嶋 達夫 氏

統括部長
矢田 紘 氏

大井工場 工場長代理
西森 修三 氏

所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-14-6

代表取締役 堀野朝広

設立 1952年4月

資本金 1,600万円

URL <https://www.niwanet.co.jp/>

事業内容 高級化粧品用外装紙器の設計、開発、印刷及び紙器加工



是非知って
もらいたい!

助成金申請のポイントはココだ!!

社歴の長さ短さにかかわらず、まずは自社の歩みをふり振り返り、創業の理念や先人の想いをつかむとよいと思います。一見まわり道のように思われるかもしれませんが、そうではありません。自社の強みや立脚点などが明確になり、目指すべき方向性もおのずと見えてきます。「申請書類のどこに何をどう書けばよいか」も見えてくるでしょう。申請にあたっては社員が協力し合うこと、「絶対に申請を通すぞ」という強い決意も大切なポイントだと思います。

申請は、将来のビジョンや企業理念を全社的に共有するよい機会にもできます。大変かもしれませんが、挑戦するだけの価値はあります。



代表取締役
堀野 朝広 氏